

1. 件名：(国研)日本原子力研究開発機構新型転換炉原型炉ふげんにおけるクリアランス評価時の放射能濃度減衰補正に係る基準日の設定誤りについて

2. 日時：令和元年12月13日(金) 13:30～13:50

3. 場所：原子力規制庁2階会議室

4. 出席者：

原子力規制庁

核燃料施設等監視部門

木原主任監視指導官、吉澤監視指導官

日本原子力研究開発機構

敦賀廃棄措置実証部門 敦賀廃止措置実証本部 東京駐在副本部長 他3名

5. 要旨：

(国研)日本原子力研究開発機構(以下「JAEA」という。)から、新型転換炉原型炉ふげんにおいて用いた資材等に含まれる放射性物質の放射能濃度の確認において、減衰補正基準日の誤入力による放射化汚染の評価数値への影響に関する検証状況等について、報告を受けた。

原子力規制庁からは、JAEA に対し、以下を伝えた。

- (1) 検証後の正確なデータ(真値)による影響評価部分と発生原因分析及び再発防止対策とに切り分け、まずは検証データの影響評価部分について、組織として十分に確認、オーソライズした評価書を早急に提出すること。
- (2) 今回の誤りが、具体的にどの様に判定結果に影響を与えるのか(与えないのか)について、事実に基づき、図表なども用いてわかりやすく表現すること。
- (3) 一連の顛末、発生原因分析及び再発防止対策については、原因の深掘り、過去の類似のトラブル事例を受けて実施した対策の有効性を十分に分析した上で検討し、報告書として提出すること。
- (4) JAEA から、指摘を踏まえて対応する旨の発言があった。

6. その他

配付資料

なし